

真空計

GV-40 / GPV-40



表示記号



注文記号

GV - 40 - -

ノン・イオン仕様
無記入 — 標準仕様
NCU—— ノン・イオン仕様

配管接続口径
無記入 — R1/4
01 ——— R1/8

40 — 外径40mm

真空計

GPV— 40

40 — 外径40mm

パネルマウント真空計

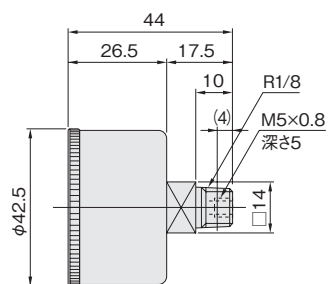
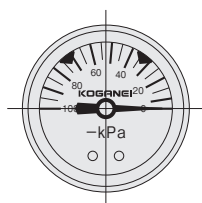
※取扱い要領と注意事項は1495ページをご覧ください。
※パネルカット寸法は1492ページをご覧ください。

仕様

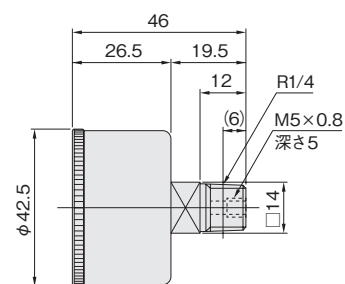
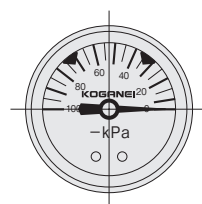
項目	形式	GV-40-01	GV-40、GPV-40
使用流体		空 気	
圧力表示範囲	kPa	0～100	
精度		F.S.±3%	
使用温度範囲	°C	5～60	
配管接続口径		R1/8 (めねじM5×0.8)	R 1/4 (めねじM5×0.8)
質量	kg	0.08	0.09

寸法図 (mm)

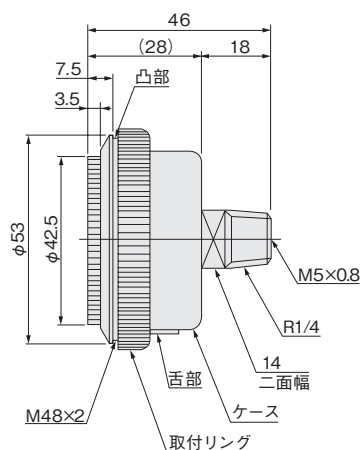
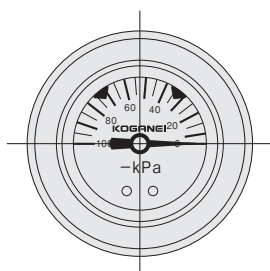
GV-40-01



GV-40



GPV-40





小形圧力計・圧力計・パネルマウント圧力計 小形精密圧力計・真空計

注意 圧力計は精密計器です。衝撃、振動に注意してください。

取付・配管

●小形圧力計・圧力計・小形精密圧力計・真空計

1. 取り付け姿勢は自由ですが、バルブとアクチュエータの間に取り付ける場合など、圧力の脈動が激しい場合には絞り機構などを設けてください。
2. 取り付けおよび配管時には、圧力計の本体部をつかんで締め付けしないでください。締め付けは必ず配管接続口の六角部または四角部にスパナを掛けて行なってください。なお、締め付けトルクは294.2N・cm以下で行なってください。

●パネルマウント圧力計

■パネルマウント圧力計 (GP1-40・GP3-40・GPV-40)

1. パネルマウント圧力計をパネルに取り付ける場合には、パネルカット寸法図に従った穴加工を行なってください。(パネルカット寸法図参照)
2. パネルマウント圧力計の包装状態は、圧力計をパネルマウントアセンブリに組み込んだ状態になっていますので、使用に際しては、アセンブリから取付リングをはずした後にパネルに取り付けてください。
3. パネルに取り付ける際は、パネルマウントケースフランジ部裏側の凸部とパネルカット穴の位置決め用小穴との位置図 (図1参照) を合わせてから行なってください。
4. パネルマウントケースの固定用取付リングの締め付けトルクは、980.7N・cm以下で締め付けてください。
5. 圧力計自体をパネルマウントケースより取りはずす場合は、取付リングをはずしてから、パネルマウントケース下部に設けある舌片を指先でめくり上げ、圧力計を押しますと簡単に取りはずせます。舌片をめくらずに無理に圧力計を取りはずそうとしますと、舌片の内側にある脱落防止用の凸部が損傷する可能性がありますので注意してください。(図2参照)

■パネルマウントアセンブリ (PM-40)

圧力計とパネルマウントアセンブリとを別々に購入して、パネルマウント圧力計にする場合は、下記の点にご注意ください。

1. パネルマウントケースから取付リングを取りはずし、圧力計配管接続口の四角部をケース底部の四角穴部に入る様に収納してください。
2. 収納する際には、(1) 圧力計ケース裏側の2本の止めビスが下側にあること。(2) パネルマウントケース底部の四角穴の下側に止めビスの逃げ穴があること。以上2項目を確認してから圧力計を押し込み収納してください。
3. 収納した状態において、パネルマウントケース下部の脱落防止用の凸部が、圧力計ケース下部の涙穴 (φ2.3) に入っていることを確認してください。圧力計とパネルマウントケースとの組み込み位置が正しい場合は、収納する舌片がスナップの役目を果たしてスムーズな収納ができます。スムーズな収納ができない場合は、舌片を指先にて捲り上げますと、収納しやすくなります。(図3参照)



(PM-40)

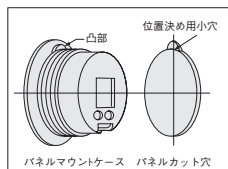


図1

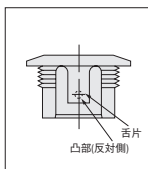


図2

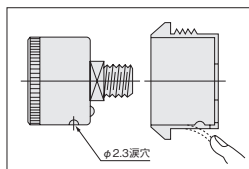


図3

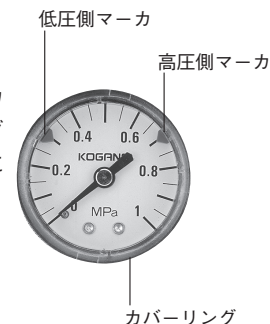
●小形精密圧力計

1. 小形精密圧力計は、精密な圧力を計測するための圧力指示計器です。振動・衝撃のある所での使用は避けてください。
2. 絞り弁には、ブルドン管、および内部機器を衝撃圧力から保護する意味から非常に小さいオリフィスを使用しているため、ゴミ、スラッジミスト、等のコンタミネーションに弱く、使用する空気は、ドライエアでミストフィルタ等を使用した清浄なドライエアをご使用ください。

プリセットマーカ

●小形圧力計・圧力計

圧力計G1-40,G3-40は、プリセットマーカを設定することができます。カバーリングを回転させて、はじめに低圧側を、つぎに高圧側をセットしてください。



温度特性

●小形精密圧力計

1. 精密保証温度範囲が、25℃±5となっているため、計測場所の周囲温度を確認してから、計測を行なってください。
2. 精度保証温度範囲を超えている場合は、温度係数0.05%F.S./℃をその周囲温度に乗じて、圧力補正を行なってください。
3. 圧力補正を行なう際の+、-は、温度特性に従い、+は30℃以上の場合に減算、-は20℃以下の場合に加算してください。

例: 計測値が0.2MPa、周囲温度が40℃の場合 (圧力補正值±0.00015MPa)

$$P_0 = P_1 \pm 0.00015 \times (T_1 - T_2) \quad P_0: \text{実圧力 (MPa)}$$

$$= 0.2 - 0.00015 \times 10 \quad P_1: \text{計測圧力 (MPa)}$$

$$= 0.1985 \text{ MPa} \quad T_1: \text{精度保証温度 (℃)}$$

$$T_2: \text{周囲温度 (℃)}$$

※ (圧力補正を行なった場合に於ても±1% F.S.の誤差があります。)

4. 圧力補正を行わない場合は、温度特性図上の使用温度範囲内において、圧力指示精度値が精度となり、周囲温度によって指示精度が変化しますので注意してください。
5. 下記のグラフは、25℃を基準温度とし、25℃時の指示精度に対して周囲温度を使用温度範囲まで変化させたときの指示精度の変動幅をフルスケールに対する%で表したものです。
6. 下記、温度特性図線は代表例ですので、特性の傾向は個々の製品により、誤差があります。
7. ———— 線は指示精度±1% F.S.±%内を示し、----- 線は周囲温度を使用温度範囲まで変化させたときの指示精度の変動幅を、温度係数を使用して算出したものです。□枠内が補正範囲を示しています。

